



北空港ふれあい緑地  
県立北欧の杜公園

# 「ふるさと」の原風景」をめざし、再生の森づくり

## 「みどりの集い」、第59回全国植樹祭「記念フェスティバル」(プレ植樹祭)

来春に開催が予定されている第59回全国植樹祭に向け、あきた北空港周辺ふれあい緑地と北欧の杜公園で、プレ植樹祭「記念フェスティバル(5月25~27日)」が開催され、多数の市民が記念植樹や各種イベントなどで森づくりへの理解を深めました。そのようすをご紹介します。

### 北空港ふれあい緑地では、「みどりの集い」で育樹作業

あきた北空港周辺ふれあい周辺緑地で開催されたのは、北秋田市主催の「みどりの集い(5月25日)」。市内の16小学校・5中学校の児童生徒、一般の応募者など200人を越える市民が参加し、平成17年の第56回秋田県植樹祭で同会場に植樹された樹木への施肥、剪定などの保育作業を行いました。

2年前の県植樹祭で植樹された樹木はツツジやモミジ、サルスベリ、イタヤカエデ、アジサイなど23種、1100本。一部は雪害やノウサギの食害で枯れたものもありますが、大部分は順調に成長しています。

### 県知事も参加し、北欧の杜公園で記念フェスティバル

開会式の後、参加者は移植ベラと肥料の入ったバケツを持って展望台の周辺一帯に分散。伸びた枝の範囲程度にサークル状に土を掘り、固形肥料を撒いて土をかぶせてもとに戻す施肥作業に汗を流しました。小中学生も、「あそこはまだだよ」と注意を払いながら、心を込めて作業を行っていました。

また、『手をつなごう 森と水とわたしたち』をテーマとした「第59回全国植樹祭記念フェスティバルin北欧の杜」が5月26・27日の2日間、県立北欧の杜公園で行われ、参加者らが記念植樹や各種イベントなどで森づくりへの理解を深めました。

### 公園内に2000人の参加者が14種、800本の広葉樹を植樹

公園北側の緑地で行われた記念植樹には、市内外からおよそ2000人が参加しました。テーマは来年の全国植樹祭でも実施される「ふるさと」の原風景・再生の森づくり。50年後にはふるさと秋田の原風景である里山の広葉樹林に育つことをイメージし、トチノキやケヤキ、クリなどの高木、ミズキやヤマモミジ等のカエデ類、ツツジなどの低木合わせて14種、800本が用意されました。

参加者は、「根本に水がたまらないように、あまり深くほらないで」などと指導を受けた後、ブロックごとに別れ、豊かな森に育つことを願いながら、スコップと移植ベラを使って植樹作業を行いました。

植樹の後参加者は、建設技能組合による秋田杉を使った仮設建物の「棟上げ式」や郷土芸能、花の苗や植木の販売、音楽演奏が行われた「フローラルフェスタ」や地産地消フェア、木を切るチェーンソーで木の彫刻をする「チェーンソーアート」など盛りだくさんのイベントで一日を楽しみました。

▼記念フェスティバル開会式で「森へのメッセージ」を朗読する堀部綾乃さん(竜森小学校3年)



▲各種イベントが開かれた「フローラルフェスタ」



▲フェスティバルの一環として行われた県チェーンソーアートクラブ主催第6回コンテストでつくられた作品。同公園内のイベント広場散策路に沿って展示されています。



北欧の杜公園に展示されているチェーンソーアート作品。展示は7月18日まで



▲約2000人が参加した記念植樹。トチノキやカエデ、ミズキなど14種類の広葉樹800本を植えました



▲50年後、「ふるさとの森」に育つことを願って

この後、「緑の少年団」活動や学校林での育林活動を行っている竜森小学校の堀部綾乃さん(3年)が、「森へのメッセージ」を朗読。堀部さんは、学校林で杉の植樹や下草刈り、間伐作業を体験したことに触れながら「両親や地域のみなさんから大切な森を育てるため

### 森づくりへの願いを込めて小学生が「森へのメッセージ」

解を深めました。フェスティバルの主催は秋田県。来春に開催予定の全国植樹祭を1年後に控え、同植樹祭のPRと緑化推進への啓発などを兼ねて開かれたものです。センターハウスに隣接する中庭で行われた開会式では、はじめに県知事、市長、(社)秋田県緑化推進委員会の藤島直一理事長らで秋田杉の丸太カットを行ないオープニング。続いて、市と県から市民に樹木の苗木を授与する「苗木リレー」が行われ、岸部市長から合川東小学校にブナの苗が、また県知事からは竜森小学校にエゾマツ、アジサイの苗が手わたされました。